

平成２９年度 全国学力・学習状況調査 結果分析概要（小学校６学年・中学校３学年）

宮代町教育委員会

◇調査結果の概要

小学校では国語・算数共に埼玉県の前年調査の平均正答率をやや下回っている。中学校でも国語が埼玉県平均を下回っているが、数学は県・全国の平均正答率と同等以上である。特に小・中学校ともに国語において学習内容の定着を図ることが、今後の課題である。

小学校６学年

＜国語Ａ（平均正答率）宮代町 74.0 県 75.0 国 74.8 国語Ｂ 宮代町 55.0 県 57.0 国 57.5＞

Ａ問題では、領域「伝統的な言語文化」の平均正答率において県を上回ったが、他の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）において下回っている。特に「手紙の構成を理解し、後付けを書く」設問の正答率が低く、課題が見られる。

Ｂ問題では、３つの領域「書くこと」「読むこと」の平均正答率において県を上回ったが、他の領域（「話すこと・聞くこと」）において県の平均正答率を下回った。「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」設問の平均正答率が低い。今後、目的や意図に応じて、書く事柄を収集した上で、その中から、具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書く学習を重視していくことが求められる。また、各自考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら交流する機会を設定することも重要となる。その際、自分の感想を明確に伝えるには、感想を表す言葉を増やしておくことが大切である。また、感想が本や文章のどの叙述に基づいているのか、自分が現実に経験したこと、普段考えていることや関心のあることなどと、どのように結び付いているのかなどを説明することも学習についても各学校に指導していく。

＜算数Ａ（平均正答率）宮代町 77.0 県 76.0 国 78.6 算数Ｂ 宮代町 44.0 県 45.0 国 45.9＞

Ａ問題では、領域「図形」において県平均正答率を上回ったが、他の３領域（「数と計算」「量と測定」「数量関係」）は下回った。特に「加法と乗法の混合した整数と小数の計算（ $6 + 0.5 \times 2$ ）」の平均正答率が 55.6%と低い。

Ｂ問題では、４つの領域（「数と計算」）において県平均正答率を上回ったが、他の３領域（「量と測定」「図形」「数量関係」）いずれも県平均正答率を下回った。「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる」設問において課題が見られた。

示された情報と場面から、基準量と比較量を捉えることができれば割合を求めることができる。同様に、基準量と割合を捉えることができれば比較量を、比較量と割合を捉えることができれば基準量を求めることができる。そのために、示された情報と場面を図や言葉などに表し、数量の関係を的確に捉えることができる学習について、各学校に指導していく。

中学校３学年

＜国語Ａ（平均正答率）宮代町 75.0 県 76.0 国 77.4 国語Ｂ 宮代町 70.0 県 72.0 国 72.2＞

Ａ問題では、４領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」）いずれも県平均正答率を下回った。「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」「楷書と行書との違いを理解する」設問において課題が見られた。

Ｂ問題では、４領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」）いずれも県平均正答率を下回った。「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」設問において課題が見られた。

日常生活や社会生活の中で使われる、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文

章で用いる語彙を豊かにしようとするのが大切である。例えば、学校生活の中での話合いなど具体的な場面を想定し、その場の状況に応じた適切な言葉について考える学習活動が考えられる。行書の基礎を学習する段階では、同じ文字の楷書と行書とを比較し、筆順や運筆などの違いについて理解するとともに、それらを生かして行書で書く学習活動を行う。さらに、文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことを書く際には、なぜそのように感じたのか、文章のどこからそのように考えたのかなどについて、根拠を明確にして書くことが大切である。その際、比喩や反復などの表現の技法についての知識を生かすなどこれまでの学習を踏まえた学習展開について指導していく。

<数学A（平均正答率）宮代町 64.0 県 63.0 国 64.6 数学B 宮代町 49.0 県 48.0 国 48.1>

A問題では、2領域（「図形」「資料の活用」）いずれも県平均正答率を上回ったが、他の2領域（「式と計算」「関数」）では県平均を下回った。「関数の意味を理解している」「与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している」設問の平均正答率が低く、課題が見られた。

B問題では、3領域（「数と式」「図形」「関数」）において県平均正答率を上回ったが、「資料の活用」領域において0.6ポイント下回った。「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」設問に課題が見られた。

様々な事象の考察を通して関数の意味を理解できるようにするために、事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を取り入れる。その際、独立変数と従属変数との違いを意識して「…は…の関数である」という形で表現する場面を設定する。比例、反比例の比例定数の意味を理解できるようにする

ために、比例について、 a を比例定数として、 $y = ax$ または、 $\frac{y}{x} = a$ という式で表される関係であること、

反比例について、 a を比例定数として、 $y = \frac{a}{x}$ または $xy = a$ という式で表される関係であることを確認する活

動を取り入れることが考えられる。問題解決の方策として、問題解決に必要な視点をもたらし、それを基に事象を考察し直し、様々な解決方法を見いだすとともに、見いだした解決方法を基に事象で成り立つ様々な性質や関係を捉える活動を取り入れる学習について、各校に指導していく。

2 質問紙調査について ※回答項目の一部を掲載

多くの児童生徒が夢や目標を持ち、友達や先生と協力してやり遂げる充実感などを感じながら生活している様子が窺える。小学生の自己有用感、自尊感情を結果として高めたい。

○朝食を毎日食べていますか<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】(宮代 95.3 県 96.5 国 95.4)

【中学校】(宮代 95.8 県 94.1 国 93.2)

○将来の夢や目標を持っていますか。 <「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答>

【小学校】(宮代 86.7 県 86.5 国 85.9)

【中学校】(宮代 78.1 県 73.1 国 70.5)

○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】(宮代 85.5 県 82.9 国 78.1)

【中学校】(宮代 78.1 県 77.3 国 74.3)

○家で、学校の宿題をしていますか<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】(宮代 96.6 県 97.8 国 96.9)

【中学校】(宮代 88.9 県 87.4 国 89.5)

○家で、学校の授業の予習をしていますか<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】(宮代 53.0 県 50.5 国 41.0)

【中学校】(宮代 46.5 県 38.0 国 31.7)

○家で、学校の授業の復習をしていますか<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】(宮代 60.3 県 61.3 国 53.8)

【中学校】(宮代 65.8 県 54.1 国 50.5)

○学校に行くのは楽しいと思いますか。 <[「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答>

【小学校】(宮代 91.8 県 86.9 国 86.3)

【中学校】(宮代 80.4 県 80.7 国 80.9)

○学校みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。

<「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答>

【小学校】(宮代 89.3 県 88.9 国 87.8)

【中学校】(宮代 88.1 県 87.8 国 86.0)